

KANDA×TUFS 英語モジュール「シンガポール英語版」にみる社会的・文化的特質

Social and Cultural Features of Singapore English as seen in the KANDA×TUFS English Modules

矢頭 典枝

Norie Yazu

神田外語大学

Kanda University of International Studies (1-4-1, Wakaba, Mihama-ku, Chiba, 261-0014, Japan)

Abstract: This article attempts to depict the similarity between the development of the Singapore English version of the “KANDA×TUFS English Modules” and the application of the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) to Asian languages. Many studies have pointed out that the reference levels and the can-do descriptors of CEFR, which were developed to meet the needs of the language learners of Europe, should not be applied without modifications to non-European languages. The Singapore English version of the English Modules was developed with significant modifications on the original template of the “KANDA×TUFS English Modules,” the former versions of which were the English varieties of the “Inner Circle” named by Kachru. This article first gives an overview of the “KANDA×TUFS English Modules,” then focuses on where and how modifications were made in the Singapore English version, describing how the social and cultural features and the ethnic and linguistic diversity of Singapore affected its development.

キーワード: 英語モジュール、シンガポール英語、アジア英語、英語の多様性、CEFR

Keywords: English Modules, Singapore English, Asian English, Diversity of English, CEFR

1. はじめに

本科研では、前科研に続き、「非 EU 地域には異なる多様な社会的・文化的特質をもつ言語習慣があることを考慮するならば、CEFR の世界的拡大に際して、どのような要素を考慮すべきか」(富盛・ソ、2014) という点が重要な問題設定の一つである。24 言語の外国語科目学習中の東京外国語大学の学生を対象に CEFR に基づいた A1 と A2 レベルの能力記述文を使った調査では、EU 言語学習者とアジア言語などの非 EU 学習者の回答には差が認められ、「非 EU 諸国に CEFR を導入する場合には、各国の一定程度の裁量が必要となろう」と考察した (富盛・YI、2016)。

本稿では、KANDA×TUFS 英語モジュール (以下、「英語モジュール」) のシンガポール英語版を取り上げる。その開発過程と CEFR がアジア諸語に適応される状況に共通点を見い出せるからである。EU 域内の諸言語に有効な通言語的な枠組みとして開発された CEFR がアジア諸語に適用された場合、一筋縄では行かないことが示唆されているが、同様に、英語を母語あるいは第 1 言語とする英語圏の国々の英語を想定して開発した英語モジュールの雛形がアジア英語として初めて開発されたシンガポール英語版にそのまま適用できないことが分かり、部分的な変更を余儀なくされた。本稿では、シンガポール英語版にみられるシンガポール英語の社会的・文化的特質を抽出することによって、これがどのような点においてアメリカ英語版をはじめとする主要英語変種版と異ならざるを得なかったのか、という点を解明する。本稿が一つの材料として、本科研の主題である CEFR に基づく通言語的言語能力達成度評価法のアジア諸語への適用の研究に側面から貢献できれば幸いである。

2. 「KANDA×TUFS 英語モジュール」のアジア英語版への適用

アメリカ英語を規範とする日本の英語教育の現場では、近年、多様な出身国の教員が教鞭をとる状況が観察され、学習者だけでなく、日本人教員も戸惑う状況が報告されている。日本では英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」であるという意識を改めるときにきている。その認識のもとに、日本人が多様な英語変種の違いを体系的に学習できる動画付きウェブ教材が開発された。

「KANDA×TUFS 英語モジュール」、あるいは「TUFS 言語モジュール英語」と呼ばれる本ウェブ教材¹（以下、「英語モジュール」とする）は、東京外国語大学大学院の 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学研究拠点」によって開発されたドイツ語、フランス語、中国語等による 27 言語（2017 年現在）のウェブ教材「TUFS 言語モジュール」で培われたハードとソフト両面の技術と、約 70 名の多様な言語・文化背景をもつ英語教員を抱える神田外語大学の人的資源を融合させ、両大学の研究者と技術者によって共同開発されたものである。その特徴として 1) 動画を通して世界の英語変種の「違い」を学ぶことができる、2) 社会言語学、英語音声学、方言学、第二言語習得などの専門分野の研究に基づいた学術的な教材である、3) 無料でインターネット配信しているため、社会で広く活用されうる、といった点が挙げられる（詳細については関屋、矢頭、マーフィー（2015）を参照）。

各「英語会話モジュール」には 40 の言語機能を表す会話があるが、そのうちの 20 会話は各英語変種で異なるオリジナルのSCRIPTであり、残りの 20 会話は全英語変種で共通のSCRIPTとなっている。後者を活用することによって異なる英語変種を同列に置いて、それぞれの発音、語彙、表現の特徴を容易に比較できることがこの英語モジュールの最大の特色である。

表 1. 英語モジュールで扱った言語機能とSCRIPTの番号

各英語変種固有のSCRIPT	全英語変種共通のSCRIPT
#1 挨拶する	#21 感謝する
#2 注意をひく	#22 自己紹介する
#3 人にものをあげる	#23 謝る
#4 経験についてたずねる	#24 さよならを言う
#5 手段についてたずねる	#25 金額についてたずねる
#6 能力についてたずねる	#26 予定を述べる
#7 場所についてたずねる	#27 程度についてたずねる
#8 意見を述べる	#28 時間についてたずねる
#9 比べる	#29 数字についてたずねる
#10 提案する	#30 特徴についてたずねる
#11 依頼する	#31 好きなものについて述べる
#12 例をあげる	#32 好きな行動について述べる
#13 妥協する	#33 順序について述べる
#14 許可を求める	#34 状況についてたずねる
#15 しなければならないと言う	#35 条件件をつける
#16 禁止する	#36 理由を述べる
#17 しなくてもよいと言う	#37 指示する
#18 要求する	#38 しなしてくれと言う
#19 希望を述べる	#39 招待する
#20 人を紹介する	#40 助言する

この英語モジュールの根底にあるのは「世界の英語変種に触れることで、規範は一つではないこと、規範は英語母語話者のみによって作られるものではないこと、世界の英語は等価であること」といった

¹ 本ウェブ教材のなかの動画付きの「会話モジュール」は科研費（基盤研究(B)平成 24-27 年度、課題名：「社会言語学的変異研究に基づいた英語会話モジュール開発」、課題番号 24320106、研究代表者：関屋康）を受けて開発され、「語彙モジュール」と「発音モジュール」は神田外語大学研究助成金および同大学のグローバル・コミュニケーション研究所研究プロジェクト助成金を受けて開発された。

意識が高められる（吉富、2015）という考えである。開発にあたっては、World Englishes の研究分野で Kachru が提唱した「三つの円」の概念（Kachru, 1985）を念頭においてモジュール開発する英語変種を選定した。この概念では、英語を国民の大半が母語あるいは第 1 言語として使う国々を「内部圏(Inner Circle)」、公用語としてあるいは第 2 言語として使う国々や地域を「外部圏(Outer Circle)」、外国語として学校教育のなかで教えている国々や地域を「拡張圏(Expanding Circle)」と称している。これまで、内部圏からアメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アイルランドの英語、外部圏からシンガポールの英語を取り上げ、2017 年現在、この 7 つの英語会話モジュールを公開している。

40 会話のスキプトの作成は当該地域を出身とする研究協力者が担当し、それを英語モジュール開発に関わった研究者と当該地域の英語を専門とする海外協力者が監修した。シンガポール英語のスキプトはシンガポール国立大学の英語学専攻の院生が作成した。最初に開発したアメリカ英語版のスキプトが後続開発の英語変種版の雛形となった。

なお、英語モジュールのシンガポール英語版で扱う英語は「口語体シンガポール英語(Colloquial Singapore English)」(いわゆる「シングリッシュ(Singlish)」)と「標準シンガポール英語(Standard Singapore English)」の両方である。高学歴のシンガポール人は英語の変種をドメインによって使い分けている²。彼らは、大学や大手企業などのフォーマルなドメインでは「シンガポール標準英語」を使用し、家族や親しい友達などインフォーマルなドメインではシングリッシュを話す（矢頭、2015）。シンガポール英語版の 4 名の出演者たちはいずれも高学歴の中華系シンガポール人である。シングリッシュの要素の度合いは各会話によって異なり、表 1. の親しい間柄の会話である「#3 人にもものをあげる」、「#5 手段についてたずねる」「#10 提案する」が最もシングリッシュ的な要素が強く、大学での面談というフォーマルな場面設定の「#36 理由を述べる」は典型的な「標準シンガポール英語」である。

筆者は開発した 7 つの英語変種のモジュールを大学の社会言語学の授業や公開講座などで活用しているが、シンガポール英語（特にシングリッシュ）に対する学生の反応は、他の英語変種に比べて格段に大きい。授業でシングリッシュ（例えば「#3 人にもものをあげる」）を初めて学生たちに聞かせるとき、「英語に聞こえない」という驚愕の表情、「非常に聞き取りにくい」、「お手本にたくない」といったコメントが多くみられ（矢頭、2018）、他の 6 つの英語変種とはかなり異なる、という印象を与える。動画であるため、出演者たちが全員アジア人であること、動画の背景がアジア的であるといった視覚的要素もその理由として一つにはあるが、シンガポール英語自体がそれまで聞いてきた多様な英語よりもはるかに斬新かつアジア的な要素をもつことを視聴者が敏感に感じるのであろう。

Kachru の「三つの円」でいう「内部圏」に属するイギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語、アイルランド英語では、アメリカ英語版に出てくるアメリカ英語特有の語や表現を、各英語変種に特有のものに変えることによって開発が進められた。しかし、「外部圏」に属するシンガポール英語版では、同じように開発が進められず、結果として「内部圏」の英語変種版とはかなり異なる英語モジュールが誕生した。主な相違点は次の 2 点であった。1) 「内部圏」の英語変種版では、アメリカ英語版に特有な語や表現を各英語変種版に特有な英語の語や表現に変えたのに対し、シンガポール英語版では中国語諸語やマレー語の語や表現、あるいは独特な語法の英語に変える箇所が相当数あった。2) 「内部圏」で起こりうる場面設定がシンガポールでは起こりえず、共通スキプトのいくつかは場面設定自体を変える必要があった。

シンガポール英語版の開発にあたって英語モジュールの雛形をなぜ、どのように変える必要があったのか。そして、どれくらい「内部圏」の英語モジュールと異なるのか。これらの点についてシンガポー

² 低学歴のシンガポール人は、英語のレパートリーが狭く、口語体シンガポール英語しか話せない傾向がある（矢頭、2015）。

ル英語モジュールからシンガポール英語の社会的・文化的特質を抽出して整理し、「外部圏」アジアの英語の一つとしての独自性について考察したい。

3. シンガポールの社会事情と文化の反映

英語モジュールでは、学習者が、当該英語変種が話される社会の事情や文化的慣習などについて理解し、興味を持ってくれるように、様々な工夫を凝らしている。まず、多くの場面では、背景写真として当該国で撮影した写真を使用し、当該国の雰囲気を醸し出している。アメリカ英語版ではニューヨークのウォール街やアトランタ郊外の住宅街、イギリス版ではロンドンの金融街や田園風景、オーストラリア英語版ではメルボルンの住宅街やタスマニアの大自然、ニュージーランド英語版ではテカポ湖やウェリントンの街中、カナダ英語版ではトロントのCNタワーやロッキー山脈のルイーズ湖、アイルランド英語版ではダブリンの街中やアイリッシュ・パブの内部などの写真を使い、視聴者が視覚的にも当該国の雰囲気を味わえるようにした。シンガポール英語版では、マリーナベイサンズ、マーライオン公園、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、中華街、オーチャード・ロードなど、観光客がよく訪れる場所の写真を多く使用した。各モジュールの40の会話には、当該国の地名、食べ物、交通機関、慣習、商業施設、余暇の過ごし方などが登場し、「語彙説明」のなかで解説されている。表2. は、シンガポール英語モジュールにみられるシンガポールの社会と文化が表れている語の一部を示す。

表2. シンガポール英語モジュールの社会と文化を表す語の説明例

会話	使われている語	語彙説明
#3	MRT	"MRT"は"Mass Rapid Transit"のことを意味する。シンガポールの地下鉄。
#4	national duty	"national duty"は「兵役」の意味。
	reservist	"reservist"は「予備兵」の意味。
	BMT	BMT"は"Basic Military Training"の省略で、「基礎訓練」という意味。全シンガポール人男性は18歳から兵役に服することが義務付けられている。18歳で第三次教育（ジュニアカレッジ/ポリテクニク/ITEのようなもの）を終える。
	NS	"NS"は"National Service"の省略で、「兵役」の意味。
#8	Bengawan Solo	"Bengawan Solo"はシンガポールにある菓子店。シンガポールに38の小売店を持ち、ウッドランドには23の工場を持つ。クエ、パンズ、ケーキ、クッキー、月餅を製造している。
#9	Swee Choon	"Swee Choon"は飲茶で有名な中華レストランである。
	Maxwell	"Maxwell"は"Maxwell Food Centre"の省略。シンガポール人には"Maxwell"という愛称で親しまれている。多くの有名な屋台が軒を連ねる屋外にあるホーカーセンター。
#10	Scoot	"Scoot"はシンガポールにある格安航空会社のこと。火曜日の朝にあるフライトのセールが有名で、近場だと香港、遠方だとオーストラリアまでのフライトがセールになる。
#17	parking coupon	"parking coupon"は「駐車券」という意味。シンガポールの公共駐車場の中には、どれくらいの期間駐車するかによって、ダッシュボードに駐車券を置くようドライバーに求めている所もある。日曜日には駐車料が無料の場所もある。駐車券が置いていない場合、罰金を支払うことになる。
#25	teh tarik	"teh tarik"は「引いたお茶」の意味で、準備の際に飲み物を「引く」動作で注ぐことに由来する。温かいインドのミルクティーで、シンガポールのレストランや屋台でよく見かける。
	4D	"4D"はシンガポールの宝くじのことを指す。
	Ion	"Ion"はシンガポール中心部にあるショッピングセンターのこと。
	GSS	"GSS"は"Great Singapore Sale"の省略。シンガポール人は頭文字表記をすることを好む。

表 2. の「#4 経験についてたずねる」(図 1.) で二人の男性が話しているのは、若い方の男性の兵役の経験についてであり、「内部圏」の英語モジュールの国々では兵役は義務ではないために、それらには登場しなかった話題である。この会話により、視聴者たちはシンガポールの軍事情報を垣間見ることができる。



図 1. シンガポール英語モジュール「#4 経験についてたずねる」の動画
 (http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_sg.html#/jp-04)

スクリプトが共通の後半の 20 会話（#21–40）では、各英語変種間で異なる社会と文化が表れる点のみを変更した。こうすることによって、発音や語彙の違いのみではなく、国ごとの社会的・文化的独自性や風土の違いをはっきり対比させることができる。表 3. がそのいくつかの例である。

表 3. 後半 20 会話の英語モジュールにおける各英語変種固有の語や設定の例

会話	#25			#32	#38
社会文化	商業施設	大規模セール	飲み物	余暇の場所	背景
アメリカ英語	Central Plaza	Black Friday Sales	tea	Malibu	セントラル・パーク
イギリス英語	Churchill Square	January Sales	tea	Hove	ブリティッシュ・ヒルズ
豪英語	Myers	Boxing Day Sales	flat white	Sorrento's back beach	タスマニア
NZ 英語	Kirkcaldie & Stains	New Year's Day Sales	long black	Mount Taranaki	テカポ湖
カナダ英語	Eaton's Centre	Boxing Day Sale	double-double	Grande Prairie	ルイーズ湖
アイルランド英語	Stephen's Green Centre	January Sales	tea	Brittas Bay	アイリッシュ海が見えるブレイの海岸

シンガポール英語	Ion	GSS	teh tarik	Punggol	ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ
----------	-----	-----	-----------	---------	---------------

例えば「#25 金額についてたずねる」では、商業施設、大規模セール、カフェで注文する飲み物をその国特有のものにしている。シンガポール英語版では、それぞれ Ion、GSS、teh tarik に変えており、それらの語の説明は表 2. にあるとおりである。

なお、後半の共通スクリプトの 20 会話のうち、以下の 4 つの会話でシンガポール英語版のみ場面設定、あるいはスクリプトの一部の変更を余儀なくされた。

表 4. シンガポール英語モジュールにおける変更点（他の英語変種版との比較）

会話	#24	#26	#33	#38
社会文化	引っ越し先	スポーツ観戦など	場面設定	追加のセリフ
アメリカ英語	New York	baseball game	運転免許の更新	なし
イギリス英語	London	footie	運転免許の更新	なし
豪英語	Melbourne	footy	運転免許の更新	なし
NZ 英語	the Waikato	the ABs	運転免許の更新	なし
カナダ英語	Vancouver	hockey game	運転免許の更新	なし
アイルランド英語	Galway	hurling game	運転免許の更新	なし
シンガポール英語	Melbourne	zoo	スポーツクラブの会員証更新	罰金があることに言及

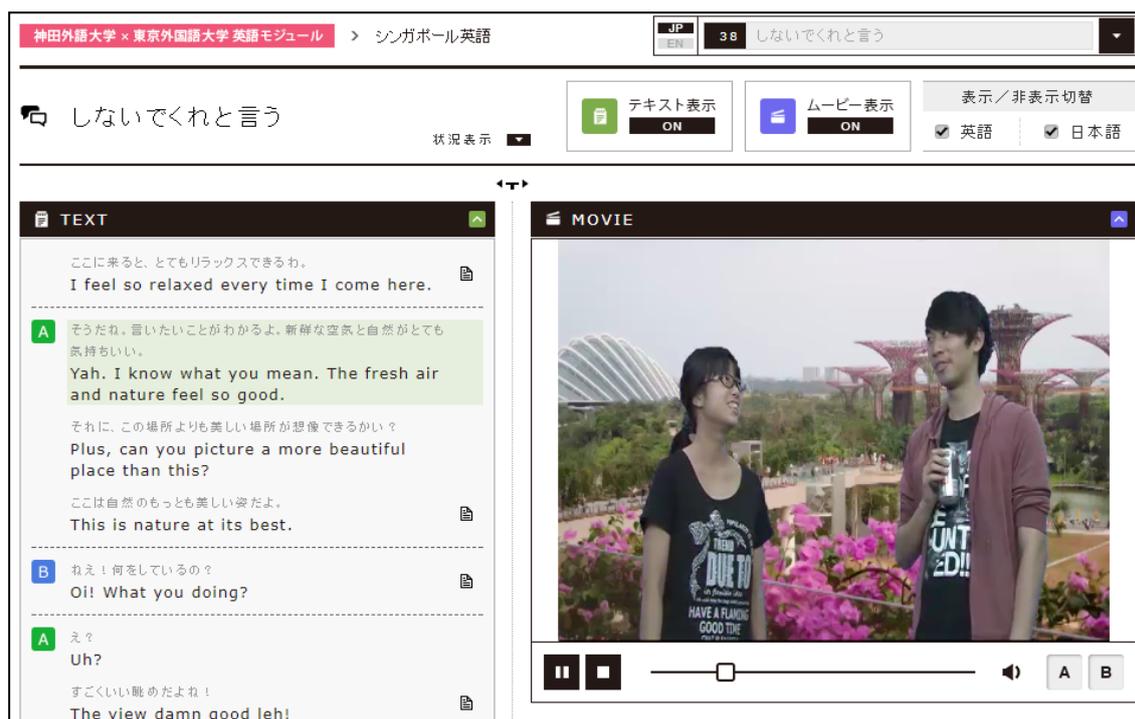


図 2. シンガポール英語モジュール「#38 しなideくれと saying」の動画
(http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_sg.html#/jp-38)

「#24 さよならを saying」では、英語モジュールのスクリプトの雛形では、国内の他の都市への引っ越しが話題となっている。しかし、シンガポールは都市国家であり、国内の他の都市がないため、国外のメルボルンへの海外引越しに変えた。

「#26 予定について述べる」では、その国の国技、あるいは人気スポーツの試合に子供たちを連れて

行く、という内容のセリフがある。アメリカ英語版では野球、イギリス英語版ではサッカー(football)、オーストラリア英語版ではフットボール(footy)、ニュージーランド英語版ではラグビーの ABs³、カナダ英語版ではアイスホッケー、アイルランド英語版ではハーリング(hurling)⁴に変えた。これに対し、シンガポールにはこれといった国技あるいは国民に特に人気のあるスポーツがないため、スポーツ観戦ではなく、動物園に変えた。

「#33 順序について述べる」では、運転免許の更新という場面設定になっているが、シンガポールではシンガポール国民と永住権保持者は自動車運転免許証の更新が不要なので、この場面設定はありえない、とシンガポール人のスクリプト作成者に指摘され、スポーツクラブの会員証の更新という設定に変更した。

「#38 しないでくれと言う」(図 2.) では、ごみのポイ捨てをした男性に対し、女性が叱責する、という場面である。しかし、これもシンガポール人のスクリプト作成者から、ごみのポイ捨てには罰金があることをシンガポール人は知っているため、この状況は普通起こらない、と指摘された。共通スクリプトの会話はストーリーラインを変えるわけにはいかないので、結局、男性は罰金のことを知っていながらポイ捨てしたということにし、女性が憤慨して罰金のことをリマインドする、という内容のセリフを挿入して、急場をしのいだ。

4. シンガポールの民族的・言語的多様性に基づく言語要素の転移

2017 年現在の民族集団別のシンガポールの人口は、中華系 74.3%、マレー系 13.4%、インド系 9.0%、その他 3.2%である (Department of Statistics Singapore, 2017)。シンガポール英語モジュールの出演者たちは全員中華系であり、彼らが話す英語には音韻的に中国語諸語の干渉、語彙レベルと語法では中国語諸語およびマレー語からの影響がみられる。本稿でいう「中国語諸語」は、学校教育で中華系が「母語教育」として学ぶマンダリン (中国で話される「北京語」と区別して「華語」ともいう) の他、中華系の母語である中国語の諸変種 (話者が多い順に、福建語、広東語、潮州語、など) を含む (矢頭、2015)。

4.1. 音韻的特徴

筆者の授業でシンガポール英語モジュールを初めて聞かせるとき、受講者たちは、欧米の英語にはない独特な音色にまず敏感に反応する。これは、中華系シンガポール人の母語⁵である中国語諸語の音韻の干渉と捉えることができる。シンガポール英語の音韻的特徴について数多くの研究があり、それについてシンガポール英語モジュールではかなりの数の言語項目を取り上げ、発音説明している。そのごく一部を表 5. に示す。

シンガポール英語の発音で一般の人々にとって最も気になるのが、語アクセントの移動であろう。通常、第一音節にアクセントがある語は、シンガポール英語では第二音節あるいは最終音節にアクセントが移動する傾向がある。シンガポール英語モジュールでは、例えば表 5. に記した「#3 人にものをあげる」の中の typical、action、movie、「#4 経験について述べる」の army、「#11 依頼する」の Saturdays、morning では最後の音節にアクセントが置かれている。

子音に関しては、語末の子音が脱落する傾向が顕著である。表 5. の「#3」の quite late の 2 語の語末

³ ABs とは、ラグビーのニュージーランド代表チーム “the All Blacks” の意味。

⁴ “hurling” はアイルランドの国技の一つ。ハールと呼ばれるハーリング用のスティックと、シリターと呼ばれる革製のボールを用いて試合を行う。

⁵ ここでの「母語」とは幼いころに家庭内で最初に習得した言語という意味で筆者は使っている。シンガポール社会でいう「学校教育における民族別の母語 (父親が話す言語)」という意味ではない。近年、シンガポールでは中華系の若年層は中国語諸語よりも英語の方を家庭内で話す傾向があり、学歴が高い家庭ほど、英語が家庭内使用言語となる傾向がある。つまり、英語の母語化が加速している (矢頭、2015)。

の子音は脱落し、「声門閉鎖音になっている」と説明している。「#5」の want と not、「#10」の should、「#11」の rest と at も最後の子音が脱落している。また、rest のように語末で子音が結合している場合は、最後の子音が省略される⁶。また、/θ/の歯茎音化も顕著である。「#4」と「#10」の think と「#23 謝罪する」の something の下線部の子音がその例であり、「[t]で発音されている」と説明している。

表 5. シンガポール英語モジュールの音韻的特徴の発音説明

会話	セリフ(下線部は特有の発音)	発音説明
#2	We also ordered a slice of chocolate <u>cake</u> to da bao.	"of"の/v/、「chocolate」の/t/、「cake」の/k/は発音されておらず、「slice of chocolate cake to da bao」で「スラソ チョコレイ ケイトウ ターパオ」のように聞こえる。
#3	Not <u>bad</u> lah.	"bAd"は「エ」にちかい発音になっている。また、「not」の/t/と"bad"の/d/は閉鎖の開放がないため、「Not bad lah.」で「ノッベッター」のように聞こえる。
	Typical <u>action</u> movie lor.	"typical"、「action"、「movie"はいずれも最後の音節(下線部)にアクセントが置かれている。
	Already <u>quite</u> late.	"quite"と"late"の/t/は声門閉鎖音になっている。"late"は/ei/ではなく、「エ」のように発音されている。そのため、「quite late」は「クワイレッツ」のように聞こえる。
	Take MRT lah	"tAke"は/ei/ではなく、「エ」と発音されている。「Take MRT lah.」は「テカマーティーラー」のように聞こえる。
#4	Hahaha, I <u>think</u> I understand the jokes about bringing the <u>maids</u> into the <u>army</u> .	"think"の/θ/は[t]で発音されており、「ティン」のように聞こえる。「maids」は/ei/ではなく、「エ」のように発音されており、「メツズ」のように聞こえる。「army」は最後の音節にアクセントが置かれている。
#5	I zap for you, you want or not?	"want"の/t/発音されておらず、「not」の/t/は閉鎖の開放がないため聞こえない。「you want or not」は繋げて発音されて、「ユーワナナツ」のように聞こえる。
#10	Where you <u>think</u> I should go ah?	"think"の/θ/は[t]で発音されている。また、「think」の/k/と"should"の/d/は閉鎖の開放がない。そのため、この文は「ウェューティン アイシュゴアー」のように聞こえる。
#11	I usually <u>rest</u> at home on <u>Saturdays</u> .	"rest"の/t/は発音されておらず"at"の/t/は閉鎖の開放がない。そのため"rest at home"は「レスアッホーム」のように聞こえる。また、「Saturdays」は最後の音節(-days)にアクセントが置かれている。
	I can walk over to your house to pick up the car from you on <u>Saturday morning</u> .	"morning"は最後の音節(-ing)にアクセントが置かれている。
#23	But there's <u>something</u> I need to talk to you about.	"something"の/θ/は[t]で発音されており、「サムティン」のように聞こえる。また、このフレーズは something 以降、一音節ごとにピッチが低(L)-高(H)-低-高と変化しており、「some(L)thing(H) I(L) need(H) to(L) talk(H) to(L) you(H) a(L)bout(H)」となっている。
#29	<u>Now</u> those people who drive <u>hybrid</u> cars, shiok, right?	このセリフの前半は一音節ずつ高(H)低(L)高低とピッチが変化しており、「Now(L) those(H) peo(L)ple(H) who(L) drive(H) hy(L)brid(H)…」となっている。

シンガポール英語では母音の多様な変化が顕著である。例えば“have”などの/a/は舌の位置が高くなって[e]に近い発音になることがある。表 5. の「#3」の bad がその例であり、「"bAd"は「エ」にちかい発音になっている」と説明している。また、二重母音/ei/が短母音で発音される傾向がある。「#3」の late と take、「#4」の maids の二重母音がその例であり、「「エ」のように発音されている」といった説明を付している。

⁶ Low & Brown によれば、シンガポール英語では、語末に結合した子音の最後の子音である閉鎖音/p,t,d,k/は脱落する傾向が強い。例えば、ramp が ram、duct が duck、worst が worse と同じように聞こえる(Low & Brown, 2005)。

イントネーションに関しては、個人差があるが、前述した語アクセントの後方移動も影響し、ピッチの高低の変化に特徴がある。シンガポール英語モジュールでは、出演者の男性一人にこの特徴が顕著に表れている。表 5. の「#23」と「#29」のなかで、この男性の発話の一部で一音節ごとにピッチが低-高-低-高と変化している点を説明している。

4.2. 語彙と語法の特徴

シンガポール英語の語彙と語法の特徴についてはモジュールで数多くの言語項目を挙げて説明しているが、紙幅の関係でここではその一部のみについて簡潔に触れる。詳しくは〈語彙モジュール〉の一つとして開発した「シンガポール英語の語彙と語法の特徴」のウェブサイトを参照されたい。

最もよく知られるシンガポール英語の特徴は、親しいシンガポール人同士の会話で、lah や leh などの中国南部方言（特に福建語と広東語）由来の間投詞が文末に使われる点である。これらは、日本語で終助詞の「ね」や「よ」を使うときのように、聞き手に対して親しみを伝える機能を果たす。表 5. の「#3」にも lah と lor が見られるが、その他にも ah, mah, hor, meh などがあり、シンガポール英語版のセリフの随所に出ている。表 6. ではこれらの語彙説明の例をいくつか挙げる。

表 6. 中国南部方言由来の間投詞の語彙説明例

会話	語	セリフ（日本語訳）	語彙説明
#14	lah	A day or two off is okay lah. (1日か2日の休暇なら問題ないよ。)	"lah"はフレーズあるいは文の終わりに用いられる間投詞である。前述してある語を強調するために使用される。この場合、2日の休暇が問題なく、上司にとっては容認できるものであることを強調している。
#1	leh	Let's have a class gathering soon leh. (近いうちに、同窓会をしましょうよ。)	"leh"は文尾の強調に使用される間投詞。leh を使うことで、話者が同窓会をすぐに開きたいが、全員が忙しいので会う事は難しいだろうという気持ちを表現している。
#3	lor	Typical action movie lor. (よくあるアクション映画かな。)	"lor"は文尾の間投詞で、「了(le)」として使用される。「了(le)」とは、文尾や文と文の間で使われ、肯定、新たな出来事の出現を表現したり、急がせる、思いとどまらせたりする時に使用する。
#2	ah	Where's the waitress ah? (ウェイトレスはどこかな?)	"ah"は疑問を強調する間投詞。
#1	ma	Busy ma. (ずっと忙しいのよ。)	"ma"は「ずっと忙しい」の意味の間投詞。この場合、忙しく何かをずっとしていることを強調している。

単語レベルでは、中国語諸語（主に福建語や広東語などの中国南部方言、あるいはマンダリン）やマレー語由来の語や表現が使われることがよくある⁷。表 7. はそのいくつかを示す。

また、表 8. に示すように、シンガポール人は音節数が多い語を短縮する傾向、また、頭文字を使って2語以上の固有名詞（地名や施設名など）を略す傾向がある。identity card や date of birth など固有名詞ではない語も頭字語にすることがある。

⁷ シンガポール人の英語ベースの発話に挿入される単語が借用語なのか、コードスイッチングなのか、という点については分析を精緻化する必要があるが、Deterding は、民族に関係なくよく使われる makan（「食べる」という意、マレー語由来）や kiasu（「負けず嫌い」という意、福建語由来）などの語は借用語とみなし、他方で、特に若い中華系の世代にみられるマンダリン（華語）由来の語の使用はコードスイッチング（Deterding は“language mixing”という語を使用）としている（Deterding, 2007:74）。

表 7. 中国語諸語とマレー語由来の語や表現についての語彙説明例

会話	語・由来	セリフ (日本語訳)	語彙説明
#2	da bao 広東語の「打包」	We also ordered a slice of chocolate cake to da bao. (あと持ち帰りでチョコレートケーキ 1 つを頼んだんだけど。)	"da bao"は広東語では「打包」と表わす。レストランで食べ残したものをプラスチックの入れ物に入れて持ち帰ること。
	Maidan 広東語の「买单」	Ah, maidan! (勘定を！)	"maidan"は広東語の名詞で、「勘定」という意味。
#27	paiseh 福建語の「怕羞」	Paiseh. I want to ask something. (すみません。ちょっと聞きたいんですが。)	"Paiseh"はここでは「すみません」という意味で使っている。Paiseh は本来 "embarrassing" という意味。
	heng 福建語の「幸」	Oh okay. Heng ah. (わかりました。それはいい。)	"Heng ah"は「それはいいね。」の意味。
#35	mafan マンダリンの「麻煩」	she very noisy and mafan lah. (すごくうるさいし、面倒くさいんだ。)	"mafan"はマンダリンの語で、何かによって腹立たしくなっている、あるいは煩わされているという意味の形容詞である。他の英語変種では、"troublesome"あるいは"bothersome"となる。
#40	qiao 広東語の「巧」	Oh! Hi Andy! So qiao! (おお！やあアンディ！偶然だね！)	"So qiao!"は「すごい偶然だね！」という意味。
#21	shiok マレー語	Wah, shiok, ah! (ああ、素晴らしかったですよ！)	"shiok"はマレーシアとシンガポールで広く使われている形容詞。強い身体的/精神的喜び、興奮の気持ち、あるいは(食べ物に使われるときは)「とても美味しい」という意味を表わす。
#38	kena マレー語	Sure kena fine one. (罰金を払うことになるわ。)	"kena"はマレー語由来で「～を余儀なくされる」という意味。受動態で使われる。"kena fine"で「罰金を科せられる」。
#18	makan マレー語	Hey, what you want to makan? (ねえ、何が食べたい？)	"makan"はマレー語由来で"eat"「食べる」の意味。シンガポール英語の口語表現では普通に使われる。

表 8. 短縮語についての説明例

会話	語	セリフ (日本語訳)	語彙説明
#9	air-con	Swee Choon has air-con, (スウィ・チューンにはエアコンがあるから、)	"air-con"は"air conditioning"の省略で、シンガポール人は省略形を好んで使う。
#12	sem	Wah, I can't believe it's our last sem already and we are graduating. (信じられないな。もう最後の学期で、もうすぐ卒業だなんて。)	"sem"は"semester"の略。「学期」の意味。
#20	JC	Are you Andy from Kevin's JC class? (あなたが、ケヴィンが JC の時同級生だった、アンディーなの？)	"JC"は"Junior College"の省略。中等学校卒業後に行く学校。年齢は 17 歳から 18 歳を対象としている。
#25	GSS	Ah, GSS, right. (ああ、GSS ね。)	"GSS"は"Great Singapore Sale"の省略。シンガポール人は頭文字表記をすることを好む。
#33	IC	we need to check your name as in your IC, . . . (IC に表記されている氏名、. . . の確認が必要となります。)	"IC"は"identity card"の省略。「NRIC (National Registration Identity Card)」のことを指す。
	DOB	your old card already has your name and your DOB, but we still need to check your current address. (古い会員証には氏名と生年月日がありますが、現住所の確認が必要となります。)	"DOB"は"date of birth"の省略。シンガポール人は頭字語を好んで使う。

さらに、シンガポール英語には、内部圏の英語変種にはない独特な語法がある。シンガポール英語版のセリフの随所にみられる **be** 動詞の脱落、**one** と **can** の独特な使い方、**already** の多用、文の主語と動詞と一致しない付加疑問形の説明例のごく一部を表 9. に簡潔に示す。

表 9. シンガポール英語特有の語法についての説明例

会話	語	セリフ（日本語訳）	語法の説明
#35	be 動詞の脱落	she very noisy and mafan lah. (すごくうるさいし、面倒くさいんだ。)	"she very noisy"の標準形は"she is very noisy"。口語体シンガポール英語では、be 動詞が脱落することがある。
#19	one	But always got long queue one, right? (でもそこって、いつも長い行列がない?)	"one"はシンガポール英語の口語体では、独特な使われ方をする。この"always got long queue one"の"one"は、関係代名詞 that の代わりに用いられ、関係代名詞節の末に置かれる。標準的な言い方は"that is the restaurant that always has a long line"。
#12	already	Wah, I can't believe it's our last sem already and we are graduating. (信じられないな。もう最後の学期で、もうすぐ卒業だなんて。)	"already"をシンガポール英語では、発話の中で多用する傾向がある。"already"には①行動の達成(完了)、②行動の始まり(開始)の2つの側面がある。この場合は②として機能しており、最後の学期が開始している状態を指し示す機能を果たしている。
#29	, is it?	You talking about the petrol price, is it? (ガソリン代のことだよ?)	", is it?"は「～ですよ?」を意味する付加疑問。標準形では", aren't you?"が使われる筈だが、口語体シンガポール英語では、主語と動詞が一致しなくても、付加疑問に", is it?"を使う傾向がある。
#22	can	Next weekend can? (次の週末は来られますか?) Can can, of course . (ええ、ええ、もちろん。)	文尾の"can"はシンガポール英語で多用される口語的表現。"Next weekend can?"はこの場合、"Can you come next weekend?"あるいは"Maybe next weekend?"の意味。"Can"は"Yes, I can."「はい、できます」の意味。

5. おわりに

シンガポール会話モジュールが「内部圏」の6つの英語モジュールとは格段と異なる特徴を持つのは、「外部圏」アジアとしてのシンガポールの社会的・文化的特質が色濃く反映した結果である。シンガポールには「内部圏」にはないシチュエーションが存在する一方で、「内部圏」にはあるがシンガポールにはないシチュエーションも存在するため、共通スクリプトのいくつかは雛形をそのまま使えず、変更を余儀なくされた。また、7つの英語モジュールにはそれぞれ、語彙的・音韻的な特徴があるが、シンガポール英語版のみが、他の言語からの語彙的・音韻的・語法的要素が転移し、他の6つの英語変種版とはかなり異なったモジュールが出来上がった。

本科研の一環として行われた CEFR の自己評価の選択記入に対する学生たちのフィードバックについての分析から「EU 言語の均質性に対する非 EU 言語の多様性の認識」が浮き彫りとなった（富盛、YI、2016）。他方で、英語モジュールのシンガポール英語版の開発においては、「内部圏」の英語変種の社会・文化的均質性に対する「外部圏」のシンガポール英語の社会・文化的多様性が浮き彫りとなった。英語モジュール開発者たちが、「内部圏」の6つの英語モジュールとは明らかに異なるシンガポール英語版を開発したように、CEFR のアジア諸語への適用を進めるにあたって、アジア諸国の多様な言語、社会、文化の実情に合わせて変容させる柔軟性をもつことが重要となろう。

なお、変種別に英語教育を行うことは通常ないため、英語モジュールで取り上げた7つの英語変種にCEFRを適用するのは無意味である。とはいえ、CEFRとの関連性について触れれば、本稿の表1の英語モジュールで扱った言語機能はA1～B1のレベルといえる。しかし、英語の多様な変種を理解するにはそれ以上のレベルが適用されよう。CEFRの「参照レベル：自己評価表」の「理解すること（聞くこと）」では、「生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難なく理解できる」（吉島・大橋、2004）レベルはC2になっていることを指摘したい。

参考文献

<欧文>

- Department of Statistics Singapore (2017) *Population Trends 2017*.
http://www.singstat.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/publications/publications_and_papers/population_and_population_structure/population2017.pdf (2018年1月4日閲覧)
- Deterding, David, 2007. *Singapore English*, Edinburgh University Press.
- Low, Ee Ling & Adam Brown. 2005. *English in Singapore: An Introduction*, McGraw Hill.
- Yazu, Norie. 2016. “The Volunteer Interpreter Training Project: The Challenge of Seven Foreign Studies Universities (Gaidais)” *Culture, Identity and Citizenship in Japan and Canada*, ISS Research Series (『東京大学 社会科学研究所』) 59, pp.39-52.

<和文>

- 関屋康、矢頭典枝、フィリップ・マーフィー. 2015. 「KANDA×TUFS 英語モジュール—開発の意義と特徴—」『グローバル・コミュニケーション研究』2, pp.1-17.
- 富盛伸夫、ソ・アルム. 2014. 「非 EU 言語の学習者アンケート調査からみた CEFR のレベル設定と能力記述文の問題点—特にアジア諸語学習者の事例から—」科学研究費助成事業 基盤研究(B) 研究プロジェクト. 『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究—成果報告書(2014)—』 pp.39-50.
- 富盛伸夫、YI Yeong-il. 2016. 「アジア諸語学習者における CEFR 自己評価の傾向と社会・文化的コミュニケーション能力に関わる諸問題—学習者アンケート調査(2014)の分析から—」『外国語教育研究』19, pp.1-19.
- 矢頭典枝. 2015. 「シンガポールの言語状況と言語教育について—現地調査から—」科学研究費助成事業 基盤研究(B) 研究プロジェクト『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究—成果報告書(2014)—』 pp.59-75.
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA_kaken/_userdata/59-75_Yazu.pdf
- 矢頭典枝. 2018. 「英語の多様性について教える観点からみるグローバル人材育成」『グローバル・コミュニケーション研究』6, 印刷中.
- 吉島茂・大橋理枝(他)訳・編. 2004. 『外国語教育II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社.
- 吉富朝子. 2015. 「世界の英語変種と第二言語語用論に対する意識を高めるための統合型学習のすすめ：国際英語のコミュニケーション能力を養うために」 *Computer & Education*, 39, 26-31.

<英語モジュールのウェブサイト>

- 神田外語大学専用サイト：<http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>
- 東京外国語大学専用サイト：<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en/>
- 「シンガポール英語の語彙と語法の特徴」：http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en/comparison/sg_v/

執筆者連絡先：yazu-n@kanda.kuis.ac.jp

本稿は科学研究費助成事業基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」(2015年度-2017年度、研究代表者富盛伸夫、研究課題/領域番号15H03224)の研究成果のひとつとして公開するものである。